

原著

看護基礎教育における国際看護学講義及び IT 環境の実態：

遠隔教育支援システムの開発に向けて

長嶺めぐみ¹ 辻村弘美² 大植崇³ 森淑江² 山田智恵里⁴

1 群馬パース大学看護学部

2 群馬大学大学院保健学研究科

3 兵庫大学看護学部

4 福島県立医科大学大学院医学研究科

要旨

目的

国際看護学は内容が多岐に渡るため全てを一人で教授するのは難しく、かつ担当教員の不足も教育上の課題である。これに対応するため、看護基礎教育における国際看護学講義および IT 環境の実態を明らかにし、国際看護学講義の遠隔教育システムの導入への示唆を得ることを本研究の目的とした。

方法

厚生労働省ホームページ上の「看護師養成所一覧」記載の専門学校、大学、高等学校・専攻科 5 年一貫教育学校、短期大学計 1,075 校の学部・学科責任者、科目責任者を対象に無記名式質問用紙を配布・回収した。調査期間は 2021 年 3-4 月であった。

結果

416 校より回答があり、不備のない 411 校を分析の対象とした(有効回答率 38.2%)。82.9%の養成所で国際看護学関連の講義が開講されていた。専門学校、5 年一貫校は大学より必修としている割合は有意に高かったが、多くが統合科目と合同で行われていた。専任教員の配置率は、全体で 68.7%であった。養成所別の講義時限数は、中央値で 5 - 8 時限であった。国際看護学関連の講義における「定義、基本的概念」に当たる項目は高い実施率を示していた一方、「国際協力としての看護の実践」は全項目実施率が 50%以下であった。「在留外国人への看護」は実施率 60%であったが、この専門性を有している教員は、全体の 18.3%であった。90.8%の養成所で、学生は講義でパソコンを含むデバイスを使用しており、86.4%の養成所が、Wi-Fi 環境を有していた。大学は専門学校、5 年一貫校より有意に Wi-Fi 環境が整っていた。E-learning のシステム保有率は、全体で 38.7%であり、大学は 65.6%で専門学校より有意に高かった。

結論

本研究では、国際看護学講義において補完が必要であると明らかになったのは、近年対象者数が増大している「在留外国人への看護」と「国際看護協力の実践に関する内容」であり、これに対する具体的な支援が必要である。Wi-Fi 環境は良く普及しているが、E-Learning システムはあまり普及しておらず、遠隔教育システムの導入は可能であるが、大学以外の養成所への遠隔教育促進の働きかけが必要であることが明らかとなった。

キーワード：国際看護学、教育の現状、講義内容、遠隔教育支援システム